

2022 年 2 月 25 日
株式会社アイスタット
News Release

株式会社アイスタット マンスリーレポート
-コロナ禍による生活変化アンケート -
(調査期間：2022年2月18日)

長引くコロナ禍生活。コロナ禍がもたらした日常の大きな変化は何か。

株式会社アイスタット（本社：東京都杉並区、代表取締役社長：志賀保夫）は、「コロナ禍による生活変化アンケート」を実施しました。

業界最大規模のモニター数を誇るセルフ型アンケートツールFreeasy を運営するアイブリッジ株式会社（本社：大阪府大阪市）の会員 30 歳～79歳の300人を対象に調査を実施しました。

調査結果サマリー



コロナ第1波～第6波のうち、生活に影響があった時期は、「第1波」の39%が最多！



コロナ禍生活で失ったものがある（ダメージを受けたものがある）割合は、8割を超える！



コロナ禍前と比べ、生活が変化(悪化) したこと

第1位 「日常生活のストレスの増加」54.7%

第2位 「収入の減少」31.7%

第3位 「体重の増加」28.7%

第4位 「雇用・働き方の悪化」28.0%

第5位 「食費・食生活の悪化」20.7%、

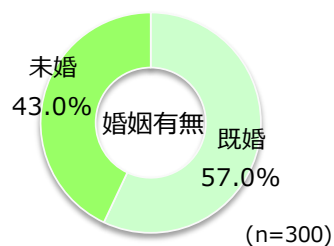
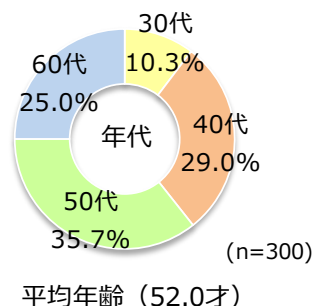
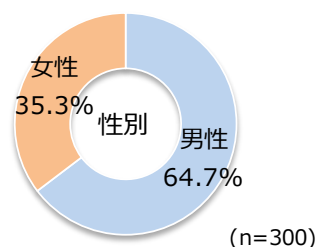
第6位 「同居者・家族との関係、コミュニケーション」17.7%

調査概要

形式	Webアンケート形式
調査期間	2022年2月18日
回答者	セルフ型アンケートツールFreeasyに登録している30歳～69歳の会員300人
調査機関	株式会社アイスタット

【回答者属性】

全体		300名	100.0%
性別	男性	194名	64.7%
	女性	106名	35.3%
年代	30代	31名	10.3%
	40代	87名	29.0%
	50代	107名	35.7%
	60代	75名	25.0%
有 婚 無 姻	未婚	129名	43.0%
	既婚	171名	57.0%
職 業	会社員(正社員)	128名	42.7%
	会社員(契約・派遣社員)	21名	7.0%
	経営者・役員	8名	2.7%
	公務員(教職員を除く)	6名	2.0%
	自営業	20名	6.7%
	自由業	9名	3.0%
	医師・医療関係者	2名	0.7%
	専業主婦	28名	9.3%
	パート・アルバイト	31名	10.3%
	無職	43名	14.3%
	その他	4名	1.3%
居 住 地	北海道・東北地方	22名	7.3%
	関東地方	132名	44.0%
	中部地方	45名	15.0%
	近畿地方	53名	17.7%
	四国・中国・九州地方・沖縄	48名	16.0%



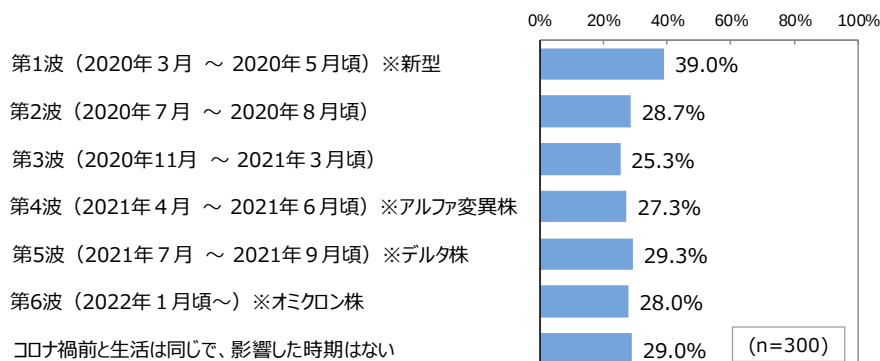
主な分析結果

コロナ第1波～第6波のうち、生活に影響があった時期は、「第1波」の39%が最多！

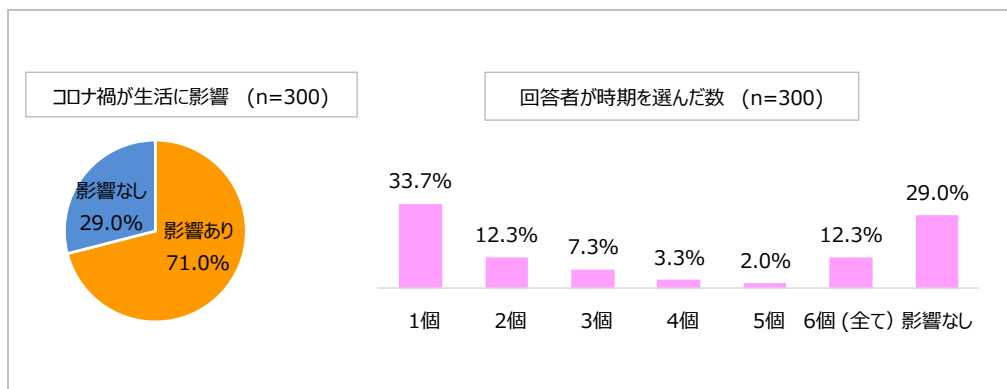
長引くコロナ禍生活、生活に影響があった時期を複数回答で聞いたところ、「第1波」の39.0%が最も多く、次に「第5波」の29.3%、「影響した時期はない」の29.0%の順で続いた。

第1波が第1位の要因は初めての「緊急事態宣言」、第5波が第2位の要因は「重症化しやすいデルタ株の猛威」が影響しているとうかがえる。しかしながら、回答割合はいずれも半数を下回る想定外の結果であった。そこで、300名のうち、生活に影響があった人はどのくらいなのか、回答データから生活影響有無別に分類してみると、「影響あり」は71%、「影響なし」は29%で、約7割の人が生活に「影響あり」と回答していることが明らかとなった。これより、回答者によって生活に影響があった時期が様々であることが、第1波から第6波の割合が半数を下回る結果につながったことが示された。

【図1】 生活に影響があった時期 （回答はいくつでも）



データから、新規に作成



(横%表)

		生活が影響した時期（複数回答）							n
		第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波	影響した時期はない	
全体		39.0	28.7	25.3	27.3	29.3	28.0	29.0	300
年代	30代	29.0	35.5	29.0	22.6	19.4	19.4	32.3	31
	40代	44.8	26.4	27.6	21.8	25.3	28.7	24.1	87
	50代	41.1	28.0	26.2	36.4	34.6	29.9	25.2	107
	60代	33.3	29.3	20.0	22.7	30.7	28.0	38.7	75
職業	有職	39.6	29.8	25.8	26.7	27.6	26.7	28.0	225
	無職・主婦・その他	37.3	25.3	24.0	29.3	34.7	32.0	32.0	75

各項目を縦に見て最大値に彩色

(横%表)

		コロナ禍が生活に影響		n
		影響あり	影響なし	
全体		71.0	29.0	300
年代	30代	67.7	32.3	31
	40代	75.9	24.1	87
	50代	74.8	25.2	107
	60代	61.3	38.7	75
職業	有職	72.0	28.0	225
	無職・主婦・その他	68.0	32.0	75

各項目を縦に見て最大値に彩色

生活が影響した時期を年代別にみると、
第1波は「40代」
第2波～第3波は「30代」
第4波～第6波は「50代」
影響ないは「60代」
で最も多かった。

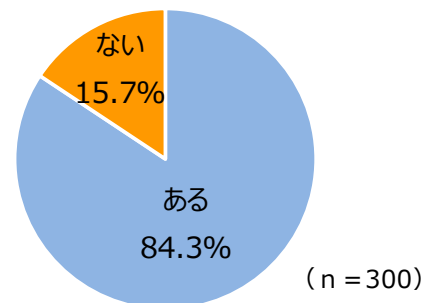
コロナ禍生活で失ったものがある（ダメージを受けたものがある）割合は、8割を超える！

コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）があるかを聞いたところ、「ややある」が36.0%で最も多く、次に「しいて言えばある」の25.3%、「全くない」の15.7%、「かなりある」の14.7%、「とてもある」の8.3%の順で続いた。失ったもの有無別に分類すると「ある」は84.3%、「ない」は15.7%で、「ある」と回答した人は圧倒的多数で、8割を超える痛ましい結果であった。

属性別にみると、「とてもある」を回答した人は「30代」「無職・主婦・その他」「生活に影響があった時期は第3波」で最も多かった。

【図2】コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）（回答は1つ）

コロナ禍生活で失ったもの	n	(n = 300)
とてもある	25	8.3%
かなりある	44	14.7%
ややある	108	36.0%
しいて言えばある	76	25.3%
全くない	47	15.7%
全体	300	100.0%



(横%表)

		コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）					n
		とてもある	かなりある	ややある	しいて言えばある	全くない	
全体		8.3	14.7	36.0	25.3	15.7	300
年代	30代	12.9	12.9	25.8	25.8	22.6	31
	40代	6.9	20.7	25.3	34.5	12.6	87
	50代	12.1	12.1	46.7	17.8	11.2	107
	60代	2.7	12.0	37.3	25.3	22.7	75
職業	有職	7.6	16.4	38.2	24.9	12.9	225
	無職・主婦・その他	10.7	9.3	29.3	26.7	24.0	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	16.2	17.1	28.2	34.2	4.3	117
	第2波	16.3	22.1	36.0	22.1	3.5	86
	第3波	21.1	26.3	30.3	19.7	2.6	76
	第4波 ※アルファ変異株	19.5	24.4	35.4	17.1	3.7	82
	第5波 ※デルタ株	14.8	27.3	25.0	28.4	4.5	88
	第6波 ※オミクロン株	17.9	26.2	26.2	25.0	4.8	84
影響した時期はない		2.3	1.1	32.2	19.5	44.8	87

各項目を縦に見て最大値に彩色

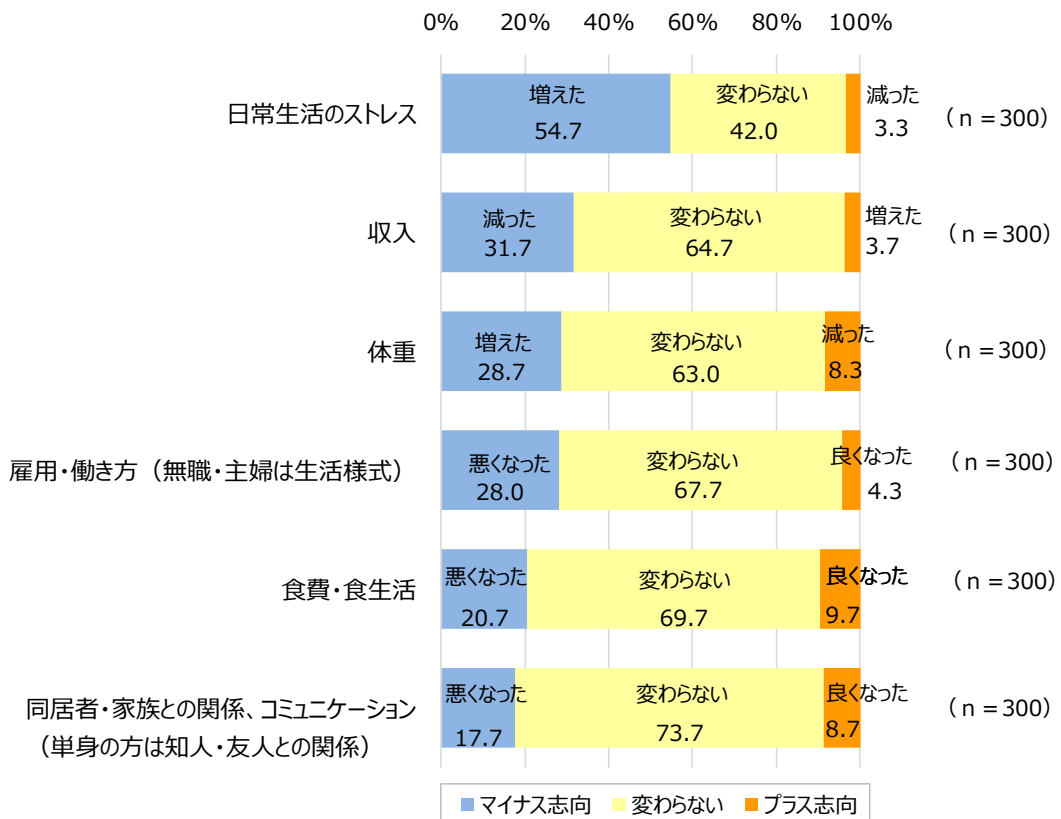
コロナ禍前との比較、生活の変化（悪化率）の第1位は「日常生活のストレス」の54.7%！

コロナ禍前と比べ、生活で変化したことがあるかを6つの内容で聞いた。

マイナス志向（悪化）の回答に着目すると、生活の変化で悪化率が最も多かった内容は「日常生活のストレスの増加」の54.7%で、次に「収入の減少」の31.7%、「体重の増加」の28.7%、「雇用・働き方の悪化」の28.0%、「食費・食生活の悪化」の20.7%、「同居者・家族との関係、コミュニケーション」の17.7%の順で続いた。なお、悪化率第1位の「日常生活のストレスの増加」は、半数を超える人が該当する深刻な結果であった。

【図3】 コロナ禍前との比較 （各質問、回答は1つ）

※ 質問に対する回答が時期（コロナ第1波～第6波）で異なる場合は、マイナス志向の回答を優先



		日常生活のストレス			n
		増えた	変わらない	減った	
全体		54.7	42.0	3.3	300
年代	30代	51.6	41.9	6.5	31
	40代	59.8	35.6	4.6	87
	50代	56.1	42.1	1.9	107
	60代	48.0	49.3	2.7	75
職業	有職	54.2	42.2	3.6	225
	無職・主婦・その他	56.0	41.3	2.7	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	68.4	26.5	5.1	117
	第2波	74.4	23.3	2.3	86
	第3波	73.7	22.4	3.9	76
	第4波 ※アルファ変異株	69.5	28.0	2.4	82
	第5波 ※デルタ株	78.4	19.3	2.3	88
	第6波 ※オミクロン株	76.2	20.2	3.6	84
	影響した時期はない	21.8	74.7	3.4	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

		収入			n
		減った	変わらない	増えた	
全体		31.7	64.7	3.7	300
年代	30代	22.6	71.0	6.5	31
	40代	35.6	59.8	4.6	87
	50代	33.6	61.7	4.7	107
	60代	28.0	72.0	0.0	75
職業	有職	31.6	64.0	4.4	225
	無職・主婦・その他	32.0	66.7	1.3	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	43.6	53.0	3.4	117
	第2波	47.7	52.3	0.0	86
	第3波	47.4	51.3	1.3	76
	第4波 ※アルファ変異株	48.8	50.0	1.2	82
	第5波 ※デルタ株	46.6	50.0	3.4	88
	第6波 ※オミクロン株	46.4	51.2	2.4	84
	影響した時期はない	4.6	93.1	2.3	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

		体重			n
		増えた	変わらない	減った	
全体		28.7	63.0	8.3	300
年代	30代	19.4	64.5	16.1	31
	40代	34.5	56.3	9.2	87
	50代	30.8	62.6	6.5	107
	60代	22.7	70.7	6.7	75
職業	有職	29.8	61.3	8.9	225
	無職・主婦・その他	25.3	68.0	6.7	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	37.6	53.8	8.5	117
	第2波	33.7	54.7	11.6	86
	第3波	40.8	52.6	6.6	76
	第4波 ※アルファ変異株	35.4	57.3	7.3	82
	第5波 ※デルタ株	37.5	55.7	6.8	88
	第6波 ※オミクロン株	44.0	48.8	7.1	84
	影響した時期はない	8.0	87.4	4.6	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

		食費・食生活			n
		悪くなった	変わらない	良くなった	
全体		20.7	69.7	9.7	300
年代	30代	25.8	48.4	25.8	31
	40代	24.1	62.1	13.8	87
	50代	24.3	69.2	6.5	107
	60代	9.3	88.0	2.7	75
職業	有職	21.3	67.1	11.6	225
	無職・主婦・その他	18.7	77.3	4.0	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	29.1	62.4	8.5	117
	第2波	31.4	58.1	10.5	86
	第3波	34.2	55.3	10.5	76
	第4波 ※アルファ変異株	34.1	58.5	7.3	82
	第5波 ※デルタ株	28.4	62.5	9.1	88
	第6波 ※オミクロン株	36.9	54.8	8.3	84
	影響した時期はない	3.4	92.0	4.6	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

		雇用・働き方 (無職・主婦は生活様式)			n
		悪くなった	変わらない	良くなった	
全体		28.0	67.7	4.3	300
年代	30代	32.3	64.5	3.2	31
	40代	27.6	66.7	5.7	87
	50代	29.0	66.4	4.7	107
	60代	25.3	72.0	2.7	75
職業	有職	28.0	66.7	5.3	225
	無職・主婦・その他	28.0	70.7	1.3	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	35.0	59.8	5.1	117
	第2波	41.9	55.8	2.3	86
	第3波	48.7	48.7	2.6	76
	第4波 ※アルファ変異株	41.5	53.7	4.9	82
	第5波 ※デルタ株	44.3	53.4	2.3	88
	第6波 ※オミクロン株	42.9	52.4	4.8	84
	影響した時期はない	5.7	92.0	2.3	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

		同居者・家族との関係、 コミュニケーション			n
		悪くなった	変わらない	良くなった	
全体		17.7	73.7	8.7	300
年代	30代	29.0	64.5	6.5	31
	40代	24.1	62.1	13.8	87
	50代	12.1	82.2	5.6	107
	60代	13.3	78.7	8.0	75
職業	有職	17.8	73.3	8.9	225
	無職・主婦・その他	17.3	74.7	8.0	75
生活に影響があった時期 (複数回答)	第1波 ※新型	23.1	65.0	12.0	117
	第2波	25.6	67.4	7.0	86
	第3波	27.6	63.2	9.2	76
	第4波 ※アルファ変異株	28.0	67.1	4.9	82
	第5波 ※デルタ株	27.3	64.8	8.0	88
	第6波 ※オミクロン株	27.4	61.9	10.7	84
	影響した時期はない	4.6	92.0	3.4	87

表側項目内を縦に見て最大に彩色

今月のレベルup ①「5段階評価」の相関分析

相関分析 とは・・・ 2つの事柄（項目）の関係を調べる方法。

- ☞ 一方が変わると、もう一方も変化するという関係。➡ **相関関係**
- ☞ 2項目間（2変数間）の関係を数値で記述。➡ **相関係数**
- ☞ 相関係数は、データのタイプ（尺度）によって求め方が異なる。

スピアマン順位相関係数

- ・ 項目（2変数）が**順位データ**や**5段階評価データ**などの**順序尺度の相関関係**を把握する。
- ・ -1から1の間の値で絶対値が大きいほど相関関係は高い。

スピアマン順位相関係数の無相関検定

- ・ 母集団のスピアマン順位相関係数が0であるかを検証する検定方法である。
- ・ 母集団が正規分布していなくても適用できる。
- ・ サンプルサイズが5以下は適用できない。

Q. コロナ生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）と関連が強い内容は？

スピアマンの順位相関係数

アイスタット フリーソフトを使用： $n \geq 11$ t 検定

$n < 11$ 棄却限界値検定

基本統計量表

※ 平均：降順で並び替え

変数名	個体数	平均	標準偏差
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	300	3.25	1.14
同居者・家族との関係、コミュニケーション	300	2.87	0.63
食費・食生活	300	2.85	0.63
体重	300	2.76	0.70
雇用・働き方 ※無職・主婦は生活様式	300	2.69	0.70
収入	300	2.63	0.69
日常生活のストレス	300	2.30	0.82

データについて

- 1 ➡ マイナス評価
- 2
- 3 ➡ 変わらない
- 4
- 5 ➡ プラス評価

※ 順位相関：降順で並び替え

順位相関行列表

n表

検定統計量表

5%棄却限界値表

1%棄却限界値表

p値表

判定表

変数名	日常生活のストレス	雇用・働き方 ※無職・主婦は生活様式	収入	食費・食生活	同居者・家族との関係、コミュニケーション	体重
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	0.469	0.387	0.357	0.293	0.219	0.151
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	300	300	300	300	300	300
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	9.173	7.256	6.587	5.298	3.878	2.638
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	2.59	2.59	2.59	2.59	2.59	2.59
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.009
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	**	**	**	**	**	**

※ $n \geq 11$ の場合、 p 値 $\leq 0.01 \rightarrow [**]$ 、 $0.01 < p$ 値 $\leq 0.05 \rightarrow [*]$ 、 p 値 $> 0.05 \rightarrow []$

A. 順位相関が一番高い「日常生活のストレス」

（解釈）日常生活のストレスが増えると、コロナ禍生活でダメージも増える

今月のレベルup ↑ ② 母平均の差の検定（t 検定）

t 検定 ... スチューデントの t 検定とも言われる。

2つの母集団から無作為抽出したサンプルの標本平均や標本標準偏差から、その2つ（2群）の母平均が等しいといえるかを p 値によって調べる方法。

👉 2群のデータは対応していない（対応のないデータ）

👉 2つの母集団は正規分布に従っている。

※ n数が60以上であれば正規分布でなくてもt検定を適用できる。

👉 2群の分散が等しい。

Q. 各内容の平均は、男性と女性で異なるか？

母平均の差の検定（t 検定__両側検定）で検証した。

**A. p 値 < 0.05より、
「日常生活のストレス」「食品・食生活」は有意差がある。（違いがあるといえる。）**

※ 差分：降順で並び替え

	n_男性	n_女性	平均値_男性	平均値_女性	平均値差分	P値	判定
日常生活のストレス	194	106	2.37	2.17	0.20	0.0419	[*]
食費・食生活	194	106	2.91	2.75	0.16	0.0343	[*]
同居者・家族との関係、コミュニケーション	194	106	2.91	2.80	0.11	0.1477	[]
コロナ禍生活で失ったもの（ダメージを受けたもの）	194	106	3.28	3.21	0.07	0.6080	[]
収入	194	106	2.61	2.67	0.06	0.5014	[]
体重	194	106	2.78	2.74	0.04	0.6359	[]
雇用・働き方 ※無職・主婦は生活様式	194	106	2.69	2.68	0.01	0.8930	[]

データについて ➡

1	2	3	4	5
マイナス評価	...	変わらない	...	プラス評価

※ 平均の数値が低いほど、評価が悪い。

サマリーレポートはこちらを参照ください。

こちらを参照ください。

<https://istat.co.jp/investigation/2022/2/result>

- 統計分析研究所 株式会社アイスstattについて

【株式会社アイスstatt（統計分析研究所）会社概要】

◇所在地 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-22-26 パラドール東高円寺3F（旧YTビル）

◇設立 2011年6月2日

◇代表者 代表取締役社長 志賀 保夫

◇事業内容 株式会社アイスstatt(統計分析研究所)は、統計学 を礎とした情報サービス業 に従事しています。

◆本調査・弊社事業などに関するお問合せ先◆

統計分析研究所 株式会社アイスstatt <https://istat.co.jp/>

総務部 橋本 有子 (somu@istat.jp) TEL: 03-3315-7637/FAX: 03-3315-7660

書籍発売のご案内



監 修 : 菅 民郎
著 者 : 志賀保夫、姫野尚子
出版社 : オーム社
価 格 : 2,500円(税抜き)
体 裁 : A5版256頁
発売日 : 2019年9月

使える51の統計手法

本書はビジネスの世界で統計解析を身につけ、実務で使いたい、しかし、難解な統計解析にどのように取り組めばいいのかわからないとする方々を対象に統計手法をやさしく解説しています。

業務や卒業研究・論文などで良く使われる51個の統計手法をピックアップ。イラストと例題、図表を用いてわかりやすく解説しています。また各手法ごとに「使える場面」が掲載されているので、学びたい手法を見つけやすく、ピンポイントで学ぶことができる便利な1冊です。

アイスstattでは統計セミナーを定期開催しています。
開催スケジュールは[こちら](#)をご参照ください。